

『The voyages of Sindbad the sailor』 retold by Pauline Francis
Pearson Education. 2008 (837.7/P37/2)

今月の紹介者：利用者サービス担当 佐々木

英語で本を読みたいけど、難しそう…と、躊躇していませんか？ そんな方にお勧めなのが英語の多読本です。今回紹介するのは「Penguin readers」シリーズ(※)の『The voyages of Sindbad the sailor』。そう、シンドバッドの冒険です。大きな魚の背にある島や人間を食べる巨人がいる島など、主人公が体験した7つの冒険が面白く描かれています。ひとつひとつの冒険も短く、読みやすいですよ。このシリーズは難易度でレベル分けされていて、自分の英語力にあった本を選べるのが特徴です。絵本のようなものから、読みごたえのある作品まで豊富に揃っており、皆さんがよく知っている童話や映画の本もありますよ。難易度の低い本でも、1冊読み終えると達成感があり、次の本を読んでもよいという気になります。多読本は、図書館の2階に置かれていますので、ぜひお気に入りの作品を見つけてみてください。※現在は「Pearson English Readers」として販売されています。



Information

坂戸市立城山中学校の生徒が図書館で職場体験をしました

1月25日、坂戸市立城山中学校の生徒1名が「中学生職場体験学習」として図書館の仕事を体験しました。大学の図書館についての説明を受けた後、カウンターでの貸出、返却図書の配架、受入図書の装備、POP作りなどを体験しました。※POPをカウンター前に展示しています。



開催予定

英語論文執筆セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」

日時：3月2日(金) 16:00-17:30 場所：17号館202教室

主催：水田記念図書館 協力：エルゼビア・ジャパン(株)

対象 ◆自然科学系の英語論文の執筆を希望する若手教員
◆大学院生 ◆大学院への進学を考えている学部生

講師 ◆関 俊暢 薬学部教授・水田記念図書館長
◆エルゼビア・ジャパン 井上 淳也 氏 (ソリューション・コンサルタント)

これから英語論文を執筆しようとしている博士課程・修士課程の学生、筆頭著者としてこれから論文投稿を行う若手研究者を主な対象としたセミナーです。



研究者向け論文剽窃チェックツール「iThenticate (アイセンティック)」説明会

日時：3月6日(火) 16:00-17:30 場所：17号館202教室

主催：水田記念図書館 協力：iJapan(株) (iGroup Japan)

対象 ◆教員、研究者、大学院生、修士・博士論文の主旨・副査

講師 ◆iJapan 渡邊 正樹 氏

研究成果を投稿する前に、剽窃チェックツールを活用し適切な論文を投稿できることを目的とし説明会を開催します。

いずれも問合せ・申込みは 図書館まで。

学生が選んだおすすめ本66冊

「学生選書2017 Part2」(12月1日～16日)で選ばれた図書を読んでみませんか。今回は49名が選書に参加しました。1階カウンター前で選書コメントとともに紹介していますので、ぜひ借りてみてください。



春休みの貸出期間	春休み長期貸出	対象資料	実施期間	返却期限日
学部1～3年生・短大1年生		図書	1/22～3/25	4/9

◆長期貸出で借りた図書は、延長できません。またシラバス図書は対象外です。

卒業年次生・別科生・科目等履修生

◆2/10までに必ず返却してください。
◆2/10以降の貸出については、カウンターまでご相談ください。

1月の図書館集報

- 1/9-31 学生アドバイザーお正月企画「万福！本福！図書館詣」を行いました。
- 1/10 日本医学図書館協会 (JMLA) /日本薬学図書館協議会 (JPLA) のコンソーシアム合同委員会に出席しました。
- 1/16 第14回ライブラリーラウンジを開催し、82名が参加しました。
- 1/24 坂戸市図書館協議会に出席しました。
- 1/25 坂戸市立城山中学校の中学生職場体験学習を受け入れました。

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

□ 平日 9:00～21:00 ■ 土曜 9:00～19:00
■ 日曜 9:00～17:00
■ 試験期間の平日 8:30～21:00
■ 休館

年度開館予定QRコード →

発行：城西大学水田記念図書館
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL：049-271-7736 FAX：049-286-8126
mail：library1@josai.ac.jp
URL：http://libopac.josai.ac.jp/
TwitterID @lib_josai
図書館ツイッターQRコード →



BookMark

2018
2

図書館と私

薬学部医療栄養学科 助教 伊東順太

図書館にまつわるテーマでの執筆を依頼されたのだが、申し訳ないほど私にとつて図書館は、子供の頃から苦手な場所であり、縁遠い存在であった。

そもそも本が好きではなかった私は大学生になってもやはりそれは続き、私が図書館を利用する際は専門分野の本がおいてある箇所を目指して行き、早々に立ち去ることが多かった。これは私だけではないはずだ。

多くの学生にとって、図書館は必要に迫られるから訪れる場所であろう。つまり、講義で出されたレポート課題のために資料を探したり、ゼミの準備で文献や関連資料を探したりと、何かの参考資料を探すことだけが図書館の利用方法だと思っている人は、決して少なくはないはずだ。

確かに、学内には多種多様な分野の人がいるので、その利用者の“求め”に対応できるだけの“必要な文献や資料”を集積し管理することは、図書館の大事な使命であると思う。では、文明が進み電子書籍も普及している現代において、その集積された本の価値、ひいては利用者にとっての図書館の価値とは何か。—それは『出逢い』なのではないかと思う。

城西大学に赴任してから数か月のこと。水田記念図書館で「アイデアのつくり方」(ジェームス W.ヤング著)という本に出逢った。実はこの本、70年以上前の1940年に初版発行されている本なのだ。それに関わらず、現代社会にも通じる内容になっているから驚きだ。本書ではアイデアの作り方をこんな一節で表している。『アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外の何ものでもない』。すなわち、『多くの要素を理解し、それらの要素を組み合わせようと試行錯誤したときに、はじめてアイデアが生み出されるのだ』と。図書館はこの「既存の要素(知見)の塊」だと私は思う。

学生には、ゆっくりと物事を考えることのできる十分な時間がある。それはきっと財産だ。だからこそ必要に迫られて探しにきた本だけでなく、その目的の本の左右の本や上下の書棚に目を配り、「既存の要素に出逢えるチャンス」を見逃さないでもらいたい。そしてもし、背表紙を見て少しでも興味が湧いたならばその本を手にとってみることをお勧めしたい。大袈裟ではなく、一冊の本との出逢いによって、もしかしたら人生が変わるかもしれない。

私にとって図書館はこれからも「安らぎの場である」とは決して言えないと思う。しかし、「学」を職業にしている私にとっては、「既存の要素」と出逢える大切な場所であり続けると思う。

参考文献

『アイデアのつくり方』ジェームス・W.ヤング著；今井茂雄訳；竹内均解説
TBSブリタニカ、1988.4 (674/Y95)

参考文献は図書館で所蔵しています

学生アドバイザー通信

●第6期 学生アドバイザーから皆さんへ



●ライブラリーラウンジ「アスリート飯」開催報告



Information

●英語論文執筆セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」<3月2日開催>

●研究者向け論文剽窃チェックツール「iThenticate (アイセンティック) 説明会」<3月6日開催>

図書館員おすすめの図書1冊

●『The voyages of Sindbad the sailor』Pearson Education

サブリーダー
経済学部 3年
笠原 銀太
(Ginta Kasahara)



振り返ってみると、アドバイザーとして皆でイベントを主催したり、他大学の図書館を訪問したり、さらに公共図書館で開催されたピブリオバトルに発表者として参加したりと、初めて経験することばかりで、いつもワクワクしていた1年でした。最初こそ不安でしたが、優しいアドバイザーの先輩や図書館員の方々のお力添えもあり、不自由なく活動できました。このような恵まれた環境で活動でき、とても幸せです。1年間ありがとうございました。

経済学部 3年
栗原 稜太
(Ryota Kuribara)



1年間アドバイザーとして活動したことは、大きな自信となりました。

高麗祭ピブリオバトルの司会や、パトラーとして出場した地域のピブリオバトルなどは自分の殻を破る経験となり、またアドバイザーの様々な企画を進めていく過程は自身の成長につながったと感じています。

他学部の先輩方との交流もこれまでにない機会が、大学生生活で最も充実した年になりました。1年間ありがとうございました。

経営学部 4年
大澤 翔
(Sho Osawa)



私は昨年度から2年間、学生アドバイザーを務めさせて頂きました。

今年度は特にアドバイザーの認知度を高められるよう、サービスの向上や、継続している企画の改善などに努めてきました。その甲斐あってか、アドバイザー主催イベントの参加者アンケートでは、昨年度以上に多くの高評価の声をもらえるようになったと感じています。

学生アドバイザーは、来年度以降も皆さんの期待に応えられる活動をしていきますので、今後ともよろしくお願いします。

経営学部 3年
工藤 颯人
(Hayato Kudo)



この1年間、アドバイザー業務を通して、イベントの企画や、会議での議事録担当など、これまであまり携わったことのない経験を多くできました。

大学の講義、資格の勉強、そしてアドバイザーの業務という3つが中心となった今年度は、学習だけでなく沢山の人と関わることのできた1年となりました。こうした経験ができたのも、図書館員の方々と、図書館を利用してくれる皆さんのおかげと思っています。ありがとうございました。

アドバイザー通信

学生アドバイザーから皆さんへ

学生アドバイザーは「学生が学生に相談できる制度」として2012年度後期に発足し、現メンバーは第6期です。今年度も1年の締めくくりとして、今期アドバイザーから一言コメントを寄せてもらいました。



現代政策学部 4年
前田 のぞみ
(Nozomi Maeda)



1年間を思い返してみると、実にあっという間に過ぎたように思います。それはきっと、充実した1年間だったからなのでしょう。

日々の業務や例年開催のイベントを、どうすればより良いものにしていけるのかと考え、改善したことは、私自身にとって貴重な経験となりました。また、学生アドバイザーが主体となり実践した新しい試みなどは、特に思い出深い出来事です。

今後も学生アドバイザーは、皆さんの手助けとなるために頑張っていきたいので、来年度もよろしくお祈りします。

経営学部 3年
松岡 粹羽
(Suiha Matsuoka)



この1年間を振り返ると、今までにない貴重な経験ができ、自己成長にもつながったと思います。会議やイベントに参加することができず、他のアドバイザーに負担をかけてしまったこともありましたが、その同じ仲間や、図書館員の方々にサポートしていただいたおかげで、充実した1年になりました。

私たち学生アドバイザーに声をかけてくれた方々、良い勉強をさせていただきありがとうございました。今後とも、よろしくお祈りします。

薬学部薬学科 3年
田中 雄也
(Yuya Tanaka)

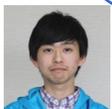


今年度、初めてアドバイザー業務を務めさせていただきました。私は薬学部生ですので、同じ薬学部生からの相談が最も多かったと感じています。

相談内容はレポートや課題、テスト勉強から卒業まで多岐に渡るもので、アドバイザー業務といっても、相談内容の幅広さや、それに対する回答の難しさを痛感する1年でした。

今後もアドバイザーが、相談する方にとって心の拠り所のような存在になり、学習のヒントを与えることができればと思います。

経営学部 3年
三森 優人
(Yuto Mitsumori)



図書館に深く関わることができた1年となりました。昨年度まで、図書館は本を借りたり勉強したりする場所、という印象でした。しかしアドバイザーとして関わることで、学生のためになる様々なイベントを開催するなど、資料以外のサポートがとても充実していることを知りました。こうした図書館の「スゴイところ」を少しでも多くの人に伝えようと努めた1年間でした。今後、より多くの人にそれが伝わっていけば嬉しいです。

学生アドバイザー活動紹介

図書館学生アドバイザー専用メール: libadvis@josai.ac.jp ツイッター: @lib_advis

ここまで読んで学生アドバイザーに興味をもったあなた！ 私たちと一緒に活動してみませんか？
学生アドバイザーは研究科長・学部長の推薦を受け、図書館長の委嘱を受けた3年生以上の学生が活動しています。責任があり、とてもやりがいのある活動です。「学生アドバイザーになってみたい」という方は、図書館カウンターまでご相談ください。

学習の相談にお答えします

1階と3階にあるアドバイザー席で様々な相談を受け付けています。パソコンの使い方・レポートの書き方など、学生目線で親身になって答えます。



アドバイザー自身も一緒に成長していくことを目指しています。皆さんのためにより良い活動ができるよう、アドバイザー会議を毎週実施しています。

2017年度活動記録

- 5月31日: 企画展示「学生アドバイザーレポート支援活動」実施(～前期)
- 6月13日: 第12回ライブラリーラウンジ「ひとりじゃない読書への誘い ゆるほんでおしゃべり、しませんか? 3」主催(14名参加)
- 6月26日: ライブラリーラウンジ番外編「カリフォルニア州立工芸大学数学科教授 加藤五郎先生を囲んで」懇談
- 9月24日: 鶴ヶ島市立図書館主催「第30回図書館まつり ピブリオバトル IN 鶴ヶ島市立中央図書館」笠原さん出場
- 10月6日: 「全国大学ピブリオバトル2017～首都決戦～予選会 城西大学」運営補助(17名出場、167名観戦)
- 10月13日: 第13回ライブラリーラウンジ「音学と科楽」主催(32名参加)
- 10月28日: 「ピブリオバトル2017 in 高麗祭」主催(5名出場、65名観戦)
- 11月12日: 坂戸市立図書館主催「第3回ピブリオバトル坂戸図書館」笠原さん出場(チャンプ本獲得)
- 11月25日: SALA Open Library Weeks 2017「学生と共に考える学生協働」笠原さん参加
- 12月17日: 「図書館と県民のつどい埼玉2017」学生スタッフとして笠原さん参加
- 12月23日: 日高市立図書館主催「ピブリオバトル2017 冬の陣」栗原さん出場(チャンプ本獲得)
- 1月9日～31日: アドバイザー正月企画「万福！ 本福！ 図書館詣」絵馬・おみくじ実施
- 1月16日: 第14回ライブラリーラウンジ「アスリート飯」主催(82名参加)



第14回 ライブラリーラウンジ

講師: 薬学部助教 伊東 順太 先生



1月16日
参加者数: 82名
会場: 「JU CAFE 2015」(第1食堂棟)



伊東先生が最初に教えてくださったことは、食事を競技の戦略として捉えるとともに、トレーニングの一つとして生活環境にあわせた食事を組み立てるということでした。そのうえで、適切な糖質の摂取量などについて、数値だけでなく、身近な献立を例に挙げて解説してくださいました。また、今回のテーマの「アスリート飯」については、主食・主菜・副菜・果物・乳製品を基本形として栄養面からみた組み合わせを示したうえで、一般的な朝食や飲食店でのメニューや、コンビニの食品まで例示していただき、とても勉強になりました。

後半は、自分で選んだ献立の栄養バランスについて、数値データで知ることができる「食育SATシステム」を体験しました。出た数値から、どんな栄養素が足りないのか、逆に摂り過ぎているのかなどを、医療栄養学科の先生や大学院生の方からアドバイスしていただき、自分の食生活について考え直すことができました。

今回のラウンジは、初の試みとして「JU CAFE 2015」で開催しました。多くの方の理想的な食事を考えられるイベントとなり、また開放感のある場所で開催したことで、たまたま食堂にいた人にも図書館の活動を知ってもらえる良い機会になったと思います。



<記: 学生アドバイザー 栗原稜太>